

二元論 v.s. 多様性、 そして相互対話の重要性、 さらに無意識に出来るよう習慣化すること

2025 年 1 月 19 日

M.Fujii

本稿を起こすにあたって、まず時代感覚をアップデートすること自体、
強く肯定されることであることを信じている。

そのうえで、以下の考察である。

1. 顔の見えない者が事実関係を調べず行う誹謗中傷に ついて

事実関係を調べず行う誹謗中傷の事案が、令和時代に入って以降、
マスコミを通じて様々に報じられている。正しい事実を入手する努力を
怠り、事実関係の是非を正しく判断する努力も怠り、匿名性の名のもとに

責任を取ることなく、好き嫌いの感覚だけで、実のところ性格や人間性もよく分かっていない相手を罵倒する風潮に戸惑うことも少なくない。

「顔の见えない」ネットの向こう側の者たちが、匿名性の名のもとに無責任に作り出すコタツ記事とコピペ投稿によって、ネット世論が捏造されていく流れは、非常に薄気味悪い。

ロボットや SNS、AI といった顔の见えないシステムやツールの杓子定規な運用も同様に薄気味悪い。

その反面、顔の見える生身の人間との継続的な直接対話には、絶大な信頼とまでは言えぬが、ある程度の信頼が置けるのも確かである。

「顔の见えない相手（システムやツール）とのコミュニケーション」と、「顔の見える相手（生身の人間）とのコミュニケーション」の二項対立を観た場合、疑義を呈するのはもちろん前者のほうである。

顔の见えない者の一方的な情報拡散はなぜ薄気味悪く、顔が見える者の発信にある部分安堵するのはなぜか。

「顔の见えないネット上のコミュニケーション」がもたらすのは、一方的なジャッジから生まれる不寛容と分断であるからであり、そうした不十分なコミュニケーションに生身の人間との直接的なコミュニケーションを望む者は、戸惑い混乱するからであると思う。

「顔の見える生身のコミュニケーション」がもたらすのは、相互の対話から生まれる寛容と包摂なので、生身の人間との直接的なコミュニケーションを望む者は安堵するのである。

「顔の見える生身のコミュニケーション」という意味では、令和時代に比べコンプライアンス意識の低い昭和時代のほうが豊かであった。

2. 多様性の意義とは ～「二元論」v.s.「多様性」の対立を超えて

コンプライアンスや多様性といったお題目が、「顔の见えない知らない誰かに一方的に与えられた規範」(=分断をもたらす不寛容なもの)に映っている。

多様性の意義を本当に理解しているか。

外から押し付けられた借り物の規範を杓子定規に運用することではなく、「顔の見える大切な人との対話を通じて内発的に身につけた規範」(=包摂をもたらす寛容なもの)に従うものでなくてはならない。

「借り物の規範」よりも、「内なる規範」に従うことを貫くことが大事なのだと思う。

そうしたことは、生身の人間との直接のコミュニケーションや相互対話を通じてでしか理解できないし、多様性の意義が失われた状況を解決できるものでもないと考える。

物事を二元論で判断することを留保し、分断ではなく包摂を目指すことが大事である。

今後必要となるスローガンは以下の通りである。

「一方的な議論、時に誹謗中傷よりも、事実関係を十分考慮した結果でのコミュニケーションや相互対話をしましょう。」

「一方的な好き嫌いの感情に基づいた断定を止めて、分断ではなく包摂をベースとしましょう。」

「少し意見が異なっても、寛容になりましょう。」

3. 無意識に出来るように習慣化すること

(1) 人の本質 ～ 受動意識仮説

人の本質は、無意識の中にあって、意識はそれを受け取って解釈しているだけである。

他者から見た場合のその人らしさは、その人の無意識の行動

に囚っている。

これを「受動意識仮説」と言う。

(2) 無意識の言動・行動 v.s.意識的な言動・行動

継続的に勉強した上での試験結果や日々の厳しい練習をしてきた上でのスポーツ競技結果は、また無意識に他人を救助支援する行動なども、無意識にかつ習慣的にやっていたら、そうしたことを行う場面で咄嗟に動くことが出来て、成果に繋がるものである。

これに対し、継続的に勉強してこなかった場合の試験結果や日々の厳しい練習を怠ってきた上でのスポーツ競技結果は、また意識的に他人を救助支援する行動などは、成果に繋がりにくい。意識だけで行動しようとする、咄嗟の場合、人は固まって動けないからである。このとき、意識のほうは詰まらない理屈をこねて、出来なかった正当性を主張しがちである。例えば、「Aさんがこのような案件を持ってきたから出来なかったのだ。悪いのはAさんだ。」、「Bさんがアシストしてくれなかったから出来なかったのだ。悪いのはBさんだ。」

人は、無意識の中に入っていないものには、突然の場合、上

手く対応できない。逆に、無意識の中に入っているように習慣化していれば、咄嗟の場合にも上手く対応できる。

無意識に出来るように習慣化することには、重要な意義がある。

欧米の大学入試で、ボランティアした内容が重要視される意味は、「人助けを無意識に出来るように習慣化することが、人格形成に重要な意味がある。」からである。

(3) マザー・テラサの箴言

マザー・テラサは、凄いことを言っている。

「習慣に気を付けなさい。それはいつか性格になるから。性格に気を付けなさい。それはいつか運命になるから。」

以上